



明星桜



今から930年ほど前の平安時代に、浦内淡路守惟久という人が、京都山城国土生から西国に追放されるということがありました。

惟久は、松浦源久を頼って、浦川内に住み付き、山野を開いて一族の安住の地としました。

しかし、故郷を忘れることができず、山代浦川内という地名と主生寺の大念仏とともに京都から明星桜と梅の木を持ってきて、この地に植えたといわれています。

明星桜は、エドヒガンザウラ系で花弁が小さく固まって咲くのが特徴で、花が多く咲けば、その年は豊作になると言われています。

一緒に伝えられた大念仏は、今なお、脇野地区に伝えられ、県の無形文化財に指定されています。

白蛇山岩陰遺跡



この遺跡には、砂岩が浸食されてできた上下二つの洞穴(ほらあな)があり、上の洞は奥行6m、横幅40m、下の洞は奥行7m、横幅8mの広さがあります。

昭和46年と49年に、佐賀県立博物館が中心となって発掘調査が行われました。

その結果、土の堆積(積み重なり)は13の層からなっており、一番古い13層と11層からは、旧石器時代の遺物(昔の人が残したもの)が発掘され、表土に近い2層～9層からは縄文時代の遺物が見つかりました。およそ12,000年前から、その後1万年の長きにわたって、古代の人々がこの岩陰で暮らしていたことが分かります。

白蛇山は、古代の住居跡として考古学上たいへん貴重なものですが、また、ここは、鎌倉時代には真言宗の修行道場となつたところ、さらには、松浦党山代氏の菩提寺として岩戸山宝積寺の奥の院であつたと考えられており、仏教寺院としても貴重な遺跡です。

真言宗 岩戸山 宝積寺



久安年間(1145～1150年)松浦党の初代源久の長子源直が、東山代里字館に政行(政治の役所)を置いたとき、人々の安泰(無事・幸せ)、仏道の興隆(ますます盛んになること)等を祈り、一門の祈願寺として、ここ宝積寺を開基(基礎をつくり開くこと)したと伝えられています。

山代の地も、自然災害だけでなく、文永の役 龍造寺氏との争いなど、種々の事変に巻き込まれましたが、宝積寺では、その度ごとに国家安泰、五穀豊穰等を願う修法(祈りの仕方)が行われてきました。

山代の地には、宝積寺を中心に、多数の真言宗の寺院が実在していることが知られています。

その一つである白蛇山東光寺跡には、山代氏5代譜、6代米の五輪塔などが祀られており、東光寺が菩提所(一家代々 葬式、追善供養などを行う寺)になっていたのであろうと考えられています。